



成瀬台中学校だより

令和8年度—第5号—

Tel (042) 728-6030 HP <http://www.machida-tyo.ed.jp/j-narusedai/>

令和8年7月 3日発行

学校目標

[自主]個性を生きし 自ら学び続ける人間

[敬愛]自他を尊重し 思いやりのある人間

[克己]困難に打ち克つ 心身ともにたくましい人間

温かく穏やかな
雰囲気の学校づくりを

「1学年 国語科 空の詩」

校長 土屋 敏彦

1学年国語科授業において全員が「空の詩」を創作しました。今回は1年生の詩をお楽しみください。

「雲」

ぷかぷか浮かぶ
大きな雲
形はまるで
アイスクリームみたいで
美味しそう
あつちの雲は
ドーナツみたいで
美味しそう
空を見れば見るほど
おなが空いてくる
ぐうぐうおなが鳴ってくる
今日のごはんはなんだろう



「星空」

星がかがやいている
夏の夜の空に
キラキラと
砂糖をまぶしたおかしのように
空一面に広がっている



「秋の月」

夕焼け空の
中にいる
ふわふわ
ふわふわ
うかんでる
大きい雲から
出てきなよ
早く早く
秋の月



「かくれんぼ」

今日の太陽ははずかしがっている
フワフワ雲に隠れて
なかなか顔を見せてくれない
チュンチュン歌いながら
飛んでいる鳥には見せているのに
こっちは顔を見せてくれない
太陽とかくれんぼしているみたい

「冬の夜空からの贈りもの」

暗い夜空が静かに息を吐く
白い綿のような雪が舞い降りる
しんしんと しんしんと
街の明かりを消していく
雪は手のひらで眠る
しんしんと しんしんと
夜の空からの贈りもの





「雲」

ゴロゴロと雷を鳴らして怒っている雲
悲しくてしくしくと雨の涙を流す雲
晴れている空で楽しく泳ぐ雲
空に虹をかけて喜んでいる雲
まるで人の表情のようだ

「花火 空」

しーんと静まり返る夜
まるで
黒い色画用紙のような空
花火が上がる
おおきな光の花
「パン」と体中に響く
大きな音
すぐに消える光
残るのは
夏の日の思い出と
静けさ



「初日の出」

初日の出が顔を出す
一月一日の寒い日に
たくさんの人が
初日の出に照らされながら
静かに
じつくり
じつくり
空を見上げてい
初日の出は
みんな
あいさつをしている



「毎日」

毎日空は同じような
顔をしているのに
一つもない
同じ日なんて
毎日
毎日
何かが違う



「空の絵の具」

夏の空に
桃色や橙色がまざる
まるで絵の具のように
ゆっくり ゆっくり
昼からゆう方へ
広がっていく
空の色が

「空の表情」

空には顔がある。
晴れの日は
まるでニコニコ笑っているよう。
くもり雨の日は
ズーンとした暗い顔のようだ。
嵐の日は
プンプンとおこっている顔のようだ。
ある日
空にはじがかかっていた
まるで人のような
明るい表情だった。





「ガラスのシャボン玉」

雲が泳ぐ

ポタツという音を最後に

去ってった

空が顔を出す

まんめんの笑みで

かさをおろす人々

空を見上げながら

空から光が降ってくる

水滴がきらきら光る

まるで

ガラスのシャボン玉のよう

だった



「二日の空」

明るくなる、明るくなる、おはようと空が言っている。

青くなる、青くなる、一日が始まる、空が言っている。

青くなる、もっともっと青くなる、一日はこれからと空が言っている。

赤くなる、赤くなる、空はどんどん赤くなる、一日の終わりを告げているように。

暗くなる、暗くなる、空はもう、まっくらだ、

空は、一日の終わりを告げて、スヤスヤ、スヤスヤ、とねむっている。



「夜の霧」

薄暗い空の下で

秋のオレンジがかすんでいく

黒い霧で見えなくなる

そこで何か聞こえてくる

鳥や虫の鳴き声が

木々もザワザワゆれている

みんな空で迷っているみたいだ

「空からのおくりもの」

夕焼けがすべてを包みこみ

あたりが真っ赤にそまっている

夕日がしずみ

あたりは暗く

ひっそり顔を出す

背中から

月は光を身にまとい

歩き始める

またどこか遠いところへ

すぐになくなってしまふ

空からのおくりもの

